

ドイツ・フィルムアーベント

フリッツィの大冒険

1989年秋の奇跡

DEUTSCHER FILMABEND

Fritzi
EINE WENDEWUNDERGESCHICHTE



2024年11月28日(木) 扇町ミュージアムキューブ CUBE02
大阪市北区南扇町6-26

入場18:00 上映開始18:30~

「フリッツィの大冒険 1989年秋の奇跡」

(2019年/監督 ラルフ・クラ、マティアス・ブルン/ 86分/ドイツ語・日本語字幕)

20:15~ トークイベント

「アニメが持つパワー アニメで歴史的出来事をどう伝えるか」

パネリスト：映画監督 Ralf Kukula, Matthias Bruhn (「フリッツィの大冒険」・オンライン参加)

映画監督 片淵須直 (「この世界の片隅に」・オンライン参加)

司会：ドイツ総領事 メラニー・ザクランガー

詳細・申込：下記URL またはQRコードより
要申込(先着100名様)、自由席、入場無料
<https://japan.diplo.de/20241128>
問い合わせ：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館



主催：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
協力：SCHLINGEL
字幕協力：東京アニメアワードフェスティバル



あらすじ
1989年の東ドイツ・ライプツィヒ。12歳のフリッツィは、親友のソフィーが夏休みに母親とハンガリーにいる間、ソフィーの愛犬スプートニクの世話を頼まれ、とても可愛いがっていました。しかし、新学期になってもソフィーがバケーションから帰って来ません。多くの東ドイツ市民同様、西側に脱出したのでした。フリッツィとスプートニクはソフィーを探すため勇気をもって旅に出ますが、そこに待ち受けていたのは国の未来が変わってしまうほどの大冒険だったのです。

解説
細部まで忠実に、当時の日常や社会がよく分かる確かな空気感で、1989年秋の平和革命を子供の視点から描いた『フリッツィの大冒険』。歴史を変える力と勇気を描いた、すべての世代が楽しめるエキサイティングで楽しいアニメ映画です。

原題：Fritzi - Eine Wendewundergeschichte
制作：ドイツノルケンブルク/ヘルキ-ノチエ 2019年
監督：ラルフ・ククラ、マティアス・ブルーム
上映時間：86分



1945年第二次世界戦に敗れたドイツは、戦勝4か国（米英仏ソ）によって分割統治されましたが、1949年ドイツ連邦共和国（西ドイツ）とドイツ民主共和国（東ドイツ）という二つの国がそれぞれ建国されました。

その後、東西ドイツ冷戦が激しくなり、1961年にはベルリンの壁が築かれ、両国の国民は自由に行き来することができなくなりました。しかし、東ドイツ市民による平和革命を経て、1989年11月9日ベルリンの壁が崩壊、1990年10月3日東ドイツが西ドイツへ編入される形で、ドイツは再び一つの国になりました。



トークイベント

アニメが持つパワー アニメで歴史的出来事をどう伝えるか

若い世代が歴史的出来事を身近に感じるためにアニメができる事は何か？歴史的出来事をテーマにする時、アニメが持つ特徴や利点は？限界は？可能性は？日独でアプローチの仕方に違いがあるのか？などについて話し合います。（日独逐次通訳付き）

パネリスト

司会



ドイツ総領事
メラニー・ザクシンガー



映画監督
ラルフ・ククラ



映画監督
マティアス・ブルーム



映画監督
片淵須直

映画「フリッツィ」は、ドイツが東西に分断されていた冷戦時代、西ドイツで暮らすことになった親友ソフィーと東ドイツに残されたソフィーの愛犬スプートニクを再会させるために奮闘するフリッツィの物語です。この一風変わったアニメ映画を監督したのは、マティアス・ブルームとラルフ・ククラ、まさにこの映画にぴったりな、東西ドイツ出身の二人です。両監督はそれぞれビーレフェルト（旧西ドイツ）とドレスデン（旧東ドイツ）で1962年に生まれ、2つの異なったドイツで育ちました。もちろん出身地を理由にこの作品の監督となったわけではありませんが、この作品をこの二人が共同で監督したことは統一ドイツの映画プロジェクトを象徴するものです。

1960年生。「この世界の片隅に」では、約80年前の第二次世界大戦中の家庭の一主婦が暮らした日々を描きました。次回作「つるばみ色のなぎ子たち」では1000年前の女性が過ごした日々を再現しようとしています。日本大学芸術学部の特任教授・上席研究員として、歴史的な事実をアニメーション映画の基礎とすることについての研究も行っています。